

令和3年度 農作物病害虫発生予察4月月報

令和3年(2021年)5月6日
山口県病害虫防除所

I 気象概況

アメダス山口県山口地点

月・半旬	気 温 (°C)								
	平均			最高			最低		
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
4.1	15.8	11.5	4.3	21.2	17.2	4.0	10.2	6.1	4.1
4.2	12.3	12.6	△ 0.3	20.7	18.4	2.3	5.0	7.2	△ 2.2
4.3	13.3	13.5	△ 0.2	18.8	19.3	△ 0.5	6.7	8.0	△ 1.3
4.4	13.6	14.3	△ 0.7	20.6	20.1	0.5	7.0	8.8	△ 1.8
4.5	18.3	15.2	3.1	26.1	21.0	5.1	11.8	9.6	2.2
4.6	15.6	16.1	△ 0.5	21.1	22.0	△ 0.9	10.4	10.5	△ 0.1
平均・計	14.8	13.9	1.0	21.4	19.7	1.8	8.5	8.4	0.2
月・半旬	降水量(mm)			日照時間(h)					
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差			
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差			
4.1	20.5	25.9	△ 5.4	30.8	28.1	2.7			
4.2	0.0	28.0	△ 28.0	54.2	29.1	25.1			
4.3	47.5	29.8	17.7	29.2	29.6	△ 0.4			
4.4	16.5	30.1	△ 13.6	32.2	30.3	1.9			
4.5	0.0	29.5	△ 29.5	41.3	31.2	10.1			
4.6	48.0	29.5	18.5	26.1	31.2	△ 5.1			
平均・計	132.5	172.8	△ 40.3	213.8	179.5	34.3			

II 作物の生育状況

- (1) ムギ類 : 2～3月の気温がやや高かったため、出穂期は平年より1～2週間程度早まった。4月に入りやや気温が低下したため、3月下旬に出穂したものは開花期までの日数が長く2週間程度かかったところもある。
- (2) ナシ : 2月下旬から4月上旬までの気温が高く推移したことにより、開花期が平年より7～10日早くなった。
- (3) タマネギ : 例年に比べ気温が高く、生育が早く推移している。早生は4月下旬、中生は5月中旬から出荷見込みである。
- (4) イチゴ : 生育は概ね順調で、早いものは5番果の収穫、6番果が出蕾・開花している。5月末まで出荷が続く見込みである。

Ⅲ 病害虫の発生状況

1 普通作物

2021年4月

病害虫名	発生状況	発生地域	発生面積(ha)	
イネ イネミズゾウムシ	予察灯(県内4か所、4月1日～4月23日合計)における誘殺数は1頭(平年0.1頭)で平年に比べやや多かった。	—	—	—
コムギ (調査ほ場数:17) 赤かび病	中旬、下旬の巡回調査では、発生は認められず、平年並みであった。 山口市の調査ほ場の番外で発生を認めた。	県内全域	少	1
うどんこ病	中旬の巡回調査では、発生は認められず平年並みであった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率11.8%(平年0%)、発病葉率4.3%(平年0%)、発病面積率0.13%(平年0%)で平年に比べ多かった。	県内全域	少	172
黄斑病	中旬の巡回調査では、発生ほ場率35.3%(前年29.4%)、発病茎率17.4%(前年16.2%)、発病度5.8(前年4.8)であった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率35.3%(前年29.4%)、発病茎率20.9%(前年29.4%)、発病度6.6(前年8.8)であった。	県内全域	多 中 少 計	86 86 344 516

2 果樹

病害虫名	発生状況	発生地域	発生面積(ha)	
ナシ (調査ほ場数:15) 黒斑病 (二十世紀:9)	下旬の巡回調査では、発生は認められず、平年並みであった。	—	—	—
黒星病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率13.3%(平年0%)、発病葉率0.1%(平年0%)で平年に比べ多かった	県内全域	少	22
赤星病	下旬の巡回調査では、発生は認められず、平年並みであった。	—	—	—
ハダニ類	下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%(平年2.1%)、寄生葉率0%(平年0.0%)で平年並みであった。	—	—	—
アブラムシ類	下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%(平年4.8%)、寄生新梢率0%(平年0.1%)で平年並みであった。	—	—	—

2021年4月

ナシ チュウゴクナシキ ジラミ	下旬の巡回調査では、発生ほ場率 13.3%(平成0.0%)、寄生葉率0.1%(平 年0.0%)で平年に比べ多かった。	県内全域	少	22
ナシヒメシンクイ	フェロモントラップ(萩市小川、4月1日 ～4月25日合計)における誘殺数は54頭 (平成109.3頭)で平成並みであった。	—	—	—
キウイフルーツ (調査ほ場数：3) かいよう病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率 33.3%(前年33.3%)、発病葉率1.0% (前年0.4%)であった。	下関市	少	1

3 野菜

病害虫名	発生状況	発生地域	発生面積(ha)	
イチゴ (調査ほ場数：18) うどんこ病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率 11.1%(平成28.9%)、発病株率2.1% (平成6.1%)、発病葉率0.1%(平成 2.2%)、発病果率0.6%(平成0.9%)で 平年に比べやや少なかった。	県内全域	中	5
			少	5
			計	10
灰色かび病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率 11.1%(平成20.7%)、発病株率2.6% (平成1.4%)、発病果率0.6%(平成 0.4%)で平年に比べやや少なかった。	県内全域	甚	5
			少	5
			計	10
菌核病	下旬の巡回調査では、発生は認められ ず、平成並みであった。	—	—	—
アブラムシ類	下旬の巡回調査では、発生ほ場率 38.9%(平成17.3%)、寄生株率11.8% (平成2.7%)で平年に比べやや多かっ た。 主要種はワタアブラムシであった。	県内全域	甚	5
			多	5
			少	26
			計	36
ハダニ類	下旬の巡回調査では、発生ほ場率 33.3%(平成53.5%)、寄生株率20.6% (平成25.8%)で平年に比べやや少な かった。 主要種はナミハダニであった。	県内全域	甚	10
			多	10
			少	10
			計	30
コナジラミ類	下旬の巡回調査では、発生ほ場率 27.8%(平成36.5%)、寄生株率10.1% (平成14.9%)で平成並みであった。 主要種はオンシツコナジラミであっ た。	県内全域	甚	5
			少	20
			計	25
アザミウマ類	下旬の巡回調査では、発生ほ場率 60.0%(平成42.3%)、寄生花率16.7% (平成7.2%)で平年に比べ多かった。 主要種はヒラズハナアザミウマであっ た。	県内全域	甚	41
			多	5
			中	15
			少	20
			計	81

タマネギ (調査ほ場数：中旬 25、下旬21)	中旬の巡回調査では、発生ほ場率 44.0%(平成10.0%)、発病株率12.2% (平成1.7%)で平年に比べ多かった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率 52.4%(平成17.5%)、発病株率20.2% (平成6.7%)で平年に比べやや多か った。	県内全域	甚 多 中 少 計	21 7 7 42 77
白色疫病	中旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平成5.1%)、発病株率0%(平成0.4%) で平成並みであった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平成0.8%)、発病株率0%(平成0.2%) で平成並みであった。	—	—	—
腐敗病	中旬の巡回調査では、発生ほ場率 24.0%(平成10.0%)、発病株率1.4% (平成0.4%)で平年に比べ多かった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率 38.1%(平成7.3%)、発病株率3.1%(平 年0.3%)で平年に比べ多かった。	県内全域	多 中 少 計	7 21 28 56
ボトリチス属菌に よる葉枯れ症(白 斑葉枯病)	中旬の巡回調査では、発生は認められ ず平成並みであった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平成1.1%)、発病株率0%(平成0.4%) で平成並みであった。	—	—	—
さび病	中旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平成0.7%)、発病株率0%(平成0.1%) で平成並みであった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平成0.5%)、発病株率0%(平成0.1%) で平成並みであった。	—	—	—
軟腐病 萎黄病	中旬、下旬の巡回調査では、発生は認 められず平成並みであった。	—	—	—
ネギアザミウマ	中旬の巡回調査では、発生ほ場率 16.0%(平成11.1%)で平年に比べやや 少なかった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率 43.5%(平成20.6%)で平年に比べやや 多かった。	県内全域	多 中 少 計	7 7 56 70

お問い合わせ先
山口県病害虫防除所
TEL (083)927-4006
E-mail a172011@pref.yamaguchi.lg.jp